

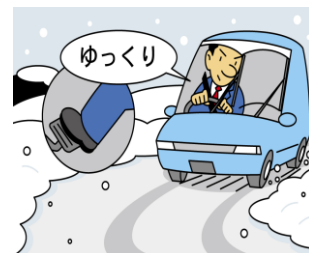
自動車防災情報

冬道の安全運転5則

1. スピードは、夏場より10キロ以上減速する

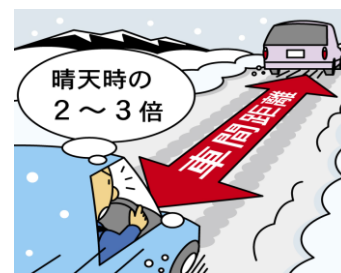
雪道では特に「止まること」が難しいので、赤信号等で止まる時なども早め早めに減速をしないとスリップしてしまうことや、後ろの車がスリップして追突されてしまう危険もあります。

ゆとりを持って、とにかくスピードを落とすことを心がけましょう。

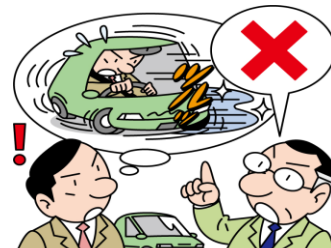
2. 車間距離は、路面乾燥時の2倍以上とする

雪道や凍結路では停止距離が非常に長くなります。

自車が余裕をもって止まれるならば、後続車にもその余裕を分け与えることができます。事故に遭わないためにも、前の車両との車間距離を十分にとって走行しましょう。

3. 急加速、急ブレーキ、急ハンドル等の急激な操作をさける

凍結路面・積雪路面では、通常の運転と違いタイヤのグリップ力が格段に落ちています。急加速はホイールスピン・急ブレーキはスリップ・急ハンドルはスピンの原因となります。冬道では特に「急」のつく運転は厳禁です。

4. 視界不良時は、前方をよく見て早めに徐行する

気温が低く、風速が8メートル以上になると、路面の雪が目の高さ吹き上げられるようになります（地吹雪）。また、路側の雪堤が高いと、そこから吹き出す飛雪が視程障害※となったり、大型車が走行時に巻き上げる雪煙により一瞬のうちにはホワイトアウトになってしまったりすることがあります。

まずはライトを点灯して、周囲に自分の存在を知らせ十分な車間距離をとってスピードをひかえめにしましょう。

※空気中に雪や水滴などの浮遊物があると、それによって光が散乱・吸収・反射され、目に届く光量が減少し、周りの景色が見えにくくなること。

5. 危険がいっぱい、追越しはしない

通常の道路では普通に行っている車線変更も、雪道では注意すべき箇所です。センターラインに留まった雪にハンドル操作を取られる可能性もあります。また停車しているバスを追い越す時ときや歩行者を避けるときなど、無理な追い越しが急なハンドル操作になりやすいので注意が必要です。

